

# KANAGAWA

一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会

<https://www.j-kana.or.jp/>  
email: [info@j-kana.or.jp](mailto:info@j-kana.or.jp)



# 9

September , 2024  
vol. 452



## Contents

特集 『わが恩師を語る・・・芦原義信』	01
建築探訪(横須賀美術館)	03
特集 神奈川の残しておきたい建築	05
委員会活動報告(地引網大会)	07
総会報告	08
賛助会だより	09
支部のページ(横須賀支部・愛川支部・伊勢原支部)	11
編集者のつぶやき(リュウゼツラン)	14

## 芦原義信所長

(有)上原建築設計事務所 上原 伸一

私が大学院修士課程を卒業した時はオイルショック直後の就職に大変な時期でしたが、ラッキーなことに芦原建築設計研究所(芦研)に勤めることができ、6年間お世話になることとなります。(この時の同期が芦原太郎氏)

当時の芦研は30数名のスタッフが、超高層の第一勧業銀行本店と佐倉の国立歴史民俗博物館の2大プロジェクトを抱え大変忙しく、若いスタッフも多く活気に溢れていました。

芦研は事務所創設の頃から、設計は構造と設備の三位一体でとの考えから、構造の織本事務所、設備の建築設備が同じビル内にあり、それぞれ顔を合わすことも多く、一つの組織のような感覚がありました。また芦研では、図書コーナー、模型コーナーなどが充実、更に専用の食堂があり、賄いのおばさんが2人で芦研と織本事務所の分を用意してくれていましたが、同じ釜の飯を、これも芦原流の運営の仕方だったかと。

1 私が芦原流で見習っていることとしては、設計事務所だからといって特別なことはなく、当時からあたりまえのこととして勤怠管理としてタイムカードを使い、報酬には残業、賞与があり、福利厚生として社会保険、労働保険は勿論のこと、年末年始休暇、有給休暇などルールがキチンと定められていたことです。

当時、芦原さん(古い所員は普段芦さんと呼んでいました)も50代、東大教授にも就任していた時で、専任の運転手の車で飛び回って事務所にはほとんどいらっしやらず、打合せがある場合は設計室内の芦原さんのデスクの後ろのボードに書いておくというルールで予約する必要がある、忙しいスケジュールの合間をみて打ち合わせをこなされ、全ての案件に対し直接指示を出されていたと思います。

新米の私などはクライアントに対するより芦原さんに対しての打ち合わせに、大変な重みを感じていましたが、そんな経験の中で芦原さんの仕事に対する厳しさを学んだと思っています。

また、社会人としての人との接し方や時間の使い方など、特殊な設計事務所の世界でも規律を持って運営されていた一方で、芦原さんの例の独特の暖かい雰囲気も経験させていただき、今の私の事務所運営

にも大いに参考にさせていただいています。

社員旅行での風呂での大騒ぎや宴席での酔った姿に親しみを感じ、休日出勤の昼食の差し入れや誰も合うはずがない衣類の提供に芦原さんの細やかな心遣いも感じました。

芦原流の設計といえば、皆様もご存知の名著「街並みの美学」などで分かり易い言葉で解説していますが、まちづくりの手法としてシーケンス、ビスタを意識し、建物の手法としてサンクンガーデン、スキップフロアなどを実作の中で取り入れていることで、日本建築学会賞を受賞したデビュー作の中央公論ビル、惜しまれながら解体された銀座ソニービルでは、スキップフロアの技法が見事に生かされています。

先日、神奈川県に縁のある元芦研が集まりましたが、所長代理のI氏、先輩のW氏、ほぼ同期のH、O、そして後輩のO、H。私にとって半世紀近く前の仲間と楽しいひと時を過ごせたのは芦原さんのお陰と感謝しています。

## ■芦原義信(あしはら・よしのぶ)略歴

建築家 1918年—2003年

大正7年7月7日、東京に生まれる。東京大学工学部建築学科卒業後、ハーバード大学大学院で修士号(M.Arch.)取得。

昭和31年、芦原義信建築設計研究所(後に芦原建築設計研究所と改称)を設立。建築設計の傍ら、法政大学教授、武蔵野美術大学教授、東京大学教授を歴任。日本建築家協会会長、日本建築学会会長を務める。

建築作品は、駒沢公園体育館、ソニービル、モントリオール万国博覧会日本館、国立歴史民俗博物館、東京芸術劇場など多数。数々の賞を受ける。

著書に『街並みの美学』(毎日出版文化賞)、『隠れた秩序—二十一世紀の都市に向けて—』などがある。

工学博士、東京大学名誉教授、日本芸術院会員、勲二等瑞宝章受章、文化勲章受章。

平成15年9月24日没。85歳。



芦原義信氏



横浜市女性フォーラム



東京芸術劇場



国立歴史民俗博物館

2



駒沢オリンピック公園 総合運動場体育館・管制塔



横浜市市民文化ホール（関内ホール）



岡山シンフォニーホール



第一勧業銀行本店

## 横須賀美術館

合同会社 戸井田設計 戸井田 顕

横須賀美術館は、2007年に開館した横須賀市の美術館で、その設計は今年のプリツカー賞の受賞者である山本理顕氏です。7月1日には横須賀美術館で受賞記念セレモニーが行われ、私も参加して直接建物の説明を聞くことができましたので、今回はセレモニーでのお話を含めて、横須賀美術館をご紹介します。

山本さんのお話で一番印象に残っているのは、「市民に開かれた美術館にしたかった」という言葉です。また竣工時の建築雑誌にも「この地域全体を活用しながら、この美術館に長時間滞在することができるようなそんな性格の滞在型美術館であるべき」という言葉が載っています。こうした言葉から、山本さんが、美術のためだけの閉じられた箱ではなく、美術だけではなく、食事や音楽など様々な活動を楽しめる広場のようなものを目指していたことが感じられます。

完成から15年以上が経ち、私も10回以上は訪れていますが、山本さんのその思いは横須賀美術館にしっかりと根付いていると気がします。広場ではいつも子供たちが遊び、食事を楽しむ人や散歩を楽しむ人もたくさんいて、いつも活気があります。

また、横須賀美術館は建築だけではなくその活動も市民に開かれています。2024年3月20日から6月18日までの期間で開かれた「鈴木敏夫とジブリ展」は、歴代最高の観覧者数となる17万人を記録しました。昨年度の年間観覧者数は16万人で、これまでの年間平均は11万人とのことなので、ジブリ展の来場者がいかに多かったかがわかります。ただ、横須賀市民にとっては、毎年横須賀美術館で開催される児童生徒造形作品展もとても大切な展示会です。2024年1月に開催された第76回児童生徒造形作品展では、市立幼・小・中・高・ろう・養護学校、73校より選抜された平面作品や立体作品等の約3,000点が展示され、全て無料でみることができます。

仮に3000点の展示物についてそれぞれ製作した本人とその両親の3人で見に来たとしても3000×3人で9000人程度なので、大まかに1万人と考えてもジブリ展に比べれば小規模と言われてしまうかもしれません。ただ人口が約37万人の横須賀市で子供を中心にした1万人の来場者の展示会が毎年ひらかれている意味はとて大きいと思います。

横須賀美術館は観音崎公園に隣接しており、美術館の裏手から直接観音崎公園に入ることができます。観音崎公園は起伏がある自然が豊かな場所で、日本最初の洋式灯台である観音崎灯台や、日本遺産の観音崎砲台群跡などもあり、横須賀の自然と歴史を感じることができます。そして忘れてはならないのは戦没船員慰霊碑です。この慰霊碑は1971年に吉村順三によって設計され、遠く水平線を望む静かで穏やかな空間が非常に印象的です。

横須賀美術館エリアは、芸術と自然と歴史を一度に楽しむことのできる特別な場所です。ぜひ一度訪れて、その魅力を体感していただけると嬉しいです。



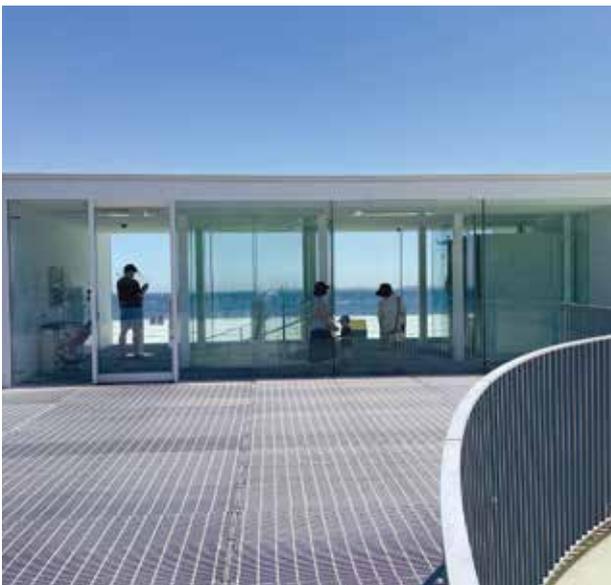
## 横須賀美術館

■所在地：横須賀市鴨居4-1

■設計・監理：山本理顕設計工場

■ホームページ：

<https://www.yokosuka-moa.jp/index.html>



## 特集 神奈川の残しておきたい建築

### 横浜市大倉山記念館

相模原支部 スタジオアートクリエイト一級建築士事務所 杉本 勝郎

横浜市大倉山記念館は、1932年（昭和7年）4月9日、大倉精神文化研究所の本館として竣工されました。大倉山公園自体は、明治43年に大倉財閥の創業者 大倉喜八郎の別荘であった土地の寄贈を受け整備されたものです

が、建物は1981年（昭和56年）に横浜市に寄贈され現在に至っています。建物は5棟の集合体であり、中央館、殿堂、回廊、東館、西館より構成されています。



中央館正面



5

ファサードは、ギリシャ神殿風（クレタ・ミケーネ様式）の西洋的外観となっています。



内部は、高さ21mの吹抜けがあり、ステンドグラスと石造りの階段により荘厳な雰囲気醸しだしています。各棟それぞれ集会室、図書館、ギャラリーに利用されており今日でも利用者が訪れています。

場所柄、大倉山公園の知名度は高くはありませんが、築92年になるこの建物をより永きに渡り残していきたいと思えます。

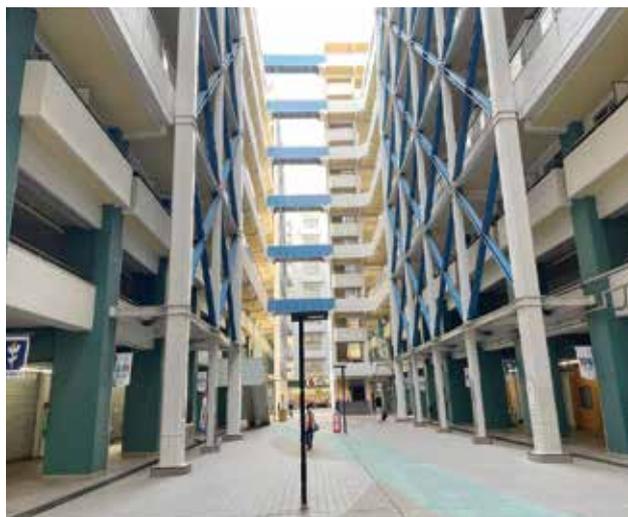
- 所在地：神奈川県横浜市港北区大倉山2-10-1
- アクセス：東急東横線大倉山駅から徒歩7分
- 設計者：長野宇平治（辰野金吾の弟子）
- 竣工：1932年

## 河原町団地（川崎市幸区）

川崎支部 株式会社創信建築事務所 森本 和樹

JR川崎駅西口の再開発エリアを抜け、徒歩15分にある河原町団地は、敷地13.8haの元工場跡地に1970年代前半に建設され、県営住宅、市営住宅、分譲住宅で構成されています。地上9階と14階建て、総戸数3591戸、合計13棟の高層住宅団地であり、集会室、保育園、商店施設、公園が併設され、かつては小学校も併設されていました。各棟は東西向きに住戸を配置し、吹き抜けを介し1棟の配置となっています。日照、採光、通風、公共広場を考慮して計画したものと思われます。また、スキップフロア型、メゾネット型住戸が設置されています。

団地敷地内に入ると、周囲の環境とは一変します。逆Y型の棟と直方体のツイン型の棟が均等に配置されています。逆Y型の棟の1階吹き抜け部の公共広場に入ると、その空間に圧倒されます。商店施設にはスーパー、酒屋、診療所、郵便局等があります。団地内は子供も多く、毎年開催される夏祭りは、多くの人々が集まり活気があります。周囲の開発された環境に対し、団地内は建設当時の古き良き風景や雰囲気が残っています。



- 所在地：川崎市幸区河原町
- 設計者：大谷研究室（大谷幸夫）

## 委員会活動報告

### 地引網大会内のイベントで、青年部会運営委員会が砂タワーコンテストを開催

青年部会運営委員会 委員 渡邊 靖

2024年6月15日（土）、青年部会運営委員会の主催により、『地引網大会と同時開催の砂タワーコンテスト』が開催されました。

『地引網大会』は、毎年初夏の6月にブロック支部委員会主催で行われる恒例行事で、江の島近くの片瀬西浜海岸で地引網体験ができる『殿網』で地引網体験をしつつ、酒席を伴う飲食で会員間の交流を図るイベントです。

今回の地引網大会は大人146名、子供39名が集まり、埼玉会の青年部からも大人6名、子供3名にお越し頂きました。

地引網で取れた魚は、ヘダイ、ホウボウ、ベラなどが計10匹程度取れ、子供達は大喜びしていました。

をお願い致しました。また砂タワーコンテストとは別に砂に埋まった番号付きの白い石を探す『宝さがし』と『ヨーヨー釣り』も実施しました。いずれも、子供さんに楽しんで頂きました。



地引網大会はお酒が入る関係で、どうしても『大人達が主体』のイベントになりがちです。しかし、子供39名／全体185名＝約20％子供さんであることを考えると、子供さん向けのイベントは必要だと考えます。

青年部会運営委員会では賞状、メダル作りを凝るところから始まり、高さ測定は、建築のリアル感を出せるよう実務で使用する測定器にするなど熟考を重ねました。また準備は、担当副会長はじめ青年部会の委員全員で頑張り、埼玉会の方々も、子供向けイベントにご尽力頂きました。

天気にも恵まれたことも、幸いだったと思います。青年部会では、今後もこのようなイベントを通じて神事協会員同士や他県の事務所協会の方々との交流が進む様、活動して行きたいと思えます。

7



青年部会運営委員会では、9：30～11：00にかけ、砂タワーコンテストを開催しました。内容は、砂場を約2m×3m四方に6つの区画を作り、5分の制限時間内にどれだけ高い砂のタワーを作るかを子供たちが競い合いました。砂タワーコンテストは計4回実施し、その中で、金賞(1等)、銀賞(2, 3等)を受賞した子供たちの賞状は平山会長から、メダルは山口雄副会長からの授与、そして、構造家としてのコメントを小松副会長

## 総会報告

### 一般社団法人神奈川県建築士事務所協会

### 第12回定時総会（令和5年度決算総会）報告

日時 令和6年6月7日（金） 14：30～

場所 ロイヤルホールヨコハマ4階 エリゼ

◇司会 星 総財務委員

◇建築士事務所憲章の朗読 星 総財務委員

◇開会の辞 小 松 副会長

◇物故会員（4名）黙祷

◇会長挨拶 平 山 会 長

◇定足数の確認

現在会員数 742名（過半数=372名）

議場出席者 65名

書面表決出席者 337名

委任出席者 78名

出席者合計 480名

以上、定款第23条の総会開催成立を報告

◇正副議長選出

議長 高橋 学氏

副議長 吉田 将也氏

◇議事録署名人選出

平山 正義氏

吉田 幸司氏

◇議案

（1）第1号議案 2023年度決算報告承認の件  
古 谷 総財務委員長から報告

（2）監査報告  
椋幹事より2023年度監査報告  
議場出席者 65名  
書面表決出席者336名  
委任出席者 78名  
合わせて479名の承認  
定款第23条による過半数を満たしている  
ことから、承認された。

（3）第2号議案 役員を選任案承認の件  
議長より議案書の次期役員候補者4名の読み上げを行う。  
議場出席者 65名

書面表決出席者333名

委任出席者 78名

合わせて 476名の承認

定款第23条による過半数を満たしている  
ことから、承認された。

◇議長解任

司会より議長解任を宣言

◇報告

（1）第1号報告 2023年度事業の報告

山口 英生 副会長より報告

（2）第2号報告 2024年度事業計画の報告

山口 英生 副会長より報告

（3）第3号報告 2024年度予算の報告

古 谷 総財務委員長より報告

◇閉会の辞

山口 雄 副会長の閉会宣言により閉会

◇表彰状贈呈式

（1）永年功労会員表彰状贈呈 1事務所

（2）会員増強支部表彰状贈呈 10支部

◇司会退任



表彰状贈呈式

## 賛助会だより

### クマリフト主力商品 「ダムウェーター」は名称変更!

#### 新名称は「コンパクトベアー」!!

クマリフト株式会社の甘樂(ツヅラ)と申します。日頃より賛助会員として協会の皆様には大変お世話になっております。

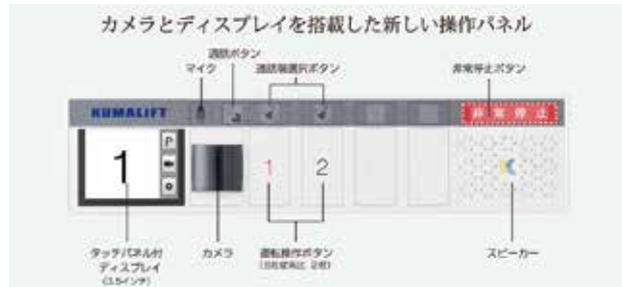
弊社は製造から販売・メンテナンスまで、自社一貫で行う総合エレベーターメーカーです。主な製品は荷物用・人荷用エレベーター・小荷物専用昇降機です。



クマリフト株式会社 甘樂 真人

付ディスプレイを搭載しました。

これにより他階の様子や相手の顔を見ながらコミュニケーションをとることができます。



#### 2、死角なし!? 既存・木造建築への取り付け

既存や木造建築に昇降機を取り付けたいそんなときもクマリフト!

弊社製品の中でユニットタイプとシャフトタイプがございます。

両タイプは鉄骨やRC壁がなくても設置可能です。詳細については弊社までお問い合わせください。

9

#### 荷物・人荷用エレベーター「マルチベアー」

##### 1、お客様のご要望にシンデレラフィット!

運搬される荷物の形状や重量に合わせて、最適なサイズや出し入れ口寸法をご提案いたします。

納期に関しては弊社ホームページで随時公開中。

##### 2、人手不足への救世主? 最近話題の AMR・AGVとの連携

AMR・AGVとは自動で荷物を搬送するロボットの事です。

現在製造業や物流業を中心に使われていますが、ワンフロアのみでの運用がされています。

そんな中クマリフトのエレベーターはAMR・AGVと連携することができます。



つまり1階から2階3階・・・と縦横無尽にロボットが自動で荷物を運びます。

またこの後ご紹介する小荷物専用昇降機とも連携することができます。

#### 小荷物専用昇降機「コンパクトベアー」

##### 1、日本初! カメラ&タッチパネル付ディスプレイ

日本で初めて操作盤にカメラ&タッチパネル



常にお客様のニーズに合わせ研究開発し、より良い昇降機を提供できるよう努めております。何かお困りのことがあれば是非ご相談ください。

クマリフト株式会社 横浜営業所  
〒221-0822 横浜市神奈川区西神奈川11-7-2  
TEL.045-322-1744 FAX.045-324-1472

## 賛助会だより

### 『2024 住まい創造フェア』・『YKK AP FAIR 2024』のご案内

YKK AP株式会社 神奈川支社 開発営業部 秋山 宏樹

YKKAP (株) の秋山でございます。日頃より賛助会員として協会の皆様には大変お世話になっており、感謝申し上げます。

今回は9月に行われます2つのイベントについてご案内させていただきます。

◆初めに昨年に引き続き大和市文化創造拠点「シリウス」1Fホールギャラリーにて賛助会主催の『住まい創造フェア』を開催いたします。(9/19(木)～20(金))そして2年連続で実行委員長を務めさせていただくことになりました。

今年は実行委員も4名と増員して、西原会長はじめ賛助会理事の皆様と力を合わせて取り組んで参りますので、乞うご期待ください。

出展企業18社とセミナー開催企業4社も昨年以上に気合を入れていますので、会員の皆様にも多数ご来場いただきご商売につなげていただきたいと思います

最後に9/19(木)の夜に開催します本会と賛助会の交流会も昨年は60名以上の参加者があり大変盛り上がりましたので、今年はそれ以上の参加者で盛り上がり親睦を深めたいと思いますので、奮ってご参加ください。

◆次にYKK AP(株)が初めて一社単独で東京ビッグサイト南展示棟1・2ホールで開催する『YKK AP FAIR 2024』になります。(9/25(水)～27(金))

大人気の施工実演や著名な先生によるご商売お役立ちセミナーを多数ご用意しているほか、家一棟や高さ7mの実物展示、様々なすごしかたに合わせたシーン展示もご用意しています。そして国内外のYKKAP商品やコンセプト展示を通して暮らしの進化を体験していただくとともにYKKAP(株)のすべてを知っていただくいい機会と考えています。

全国からプロユーザーの方が多数ご来場されますので、とても活気にあふれたフェアになると思います。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

今後とも皆様よりご愛顧いただけるようそしてご商売のお役立ちにつながるご提案をさせていただきますので宜しくお願い申し上げます。



いざ大和にご参集あれ!!

最新建築関連総合展示会&セミナー

入場 無料

# 住まい創造フェア

2024.9.19 木 - 9.20 金

13:00~17:00 10:00~15:00

最新建築技術及び製品・施工例の展示の他、技術セミナーも開催します。  
出展企業とテーマ、セミナー開催企業と内容については裏面をご参照下さい。一般の方も無料でご入場いただけます。

会場 Sirius(大和文化創造拠点シリウス)  
1F 芸術文化ホールギャラリー  
神奈川県大和市大和南1-8-1  
小田急江ノ島線・相鉄本線 大和駅徒歩3分

HP <https://www.sanjo-kai.com/>

お問合せ 神奈川県建築士事務所協会 賛助会HP  
問い合わせ7/24よりお願いします。  
<https://www.sanjo-kai.com/contact>

QRコードから

室内図

主催：(一社)神奈川県建築士事務所協会 賛助会  
協賛：(一社)神奈川県建築士事務所協会

YKK AP

# YKK AP FAIR 2024

YKK AP初!  
単独展示会

日時:2024.9.25(水)・27(金) 10:00-17:00 (最終日は15:00まで)  
場所:東京ビッグサイト 南展示棟 南1・2ホール

想いをつなぎ、社会を幸せにする  
住宅、エクステリア、ビル、産業製品、海外事業など国内外のYKK AP商品も、一堂にご覧いただけます。  
今もこれからも、快適にすくすく住むために……多数のシーン提案、多様な商品、そして未来に向けた技術をぜひ会場でご確認ください。

YKK APのCMに出演中のあの俳優さんが、会場のどこかで撮影しているかも?

事前来場登録のお願い  
ご来場には事前登録が必要です。  
QRコードからご登録をお願いします。  
※本フェアは、YKK APの登録商標です。  
※本フェアは、YKK APの登録商標です。

特設Webサイト  
セミナー情報や展示内容など、展示会の詳細や最新情報は特設Webサイトをご覧ください。

住宅・EX観本部 神奈川支社

<https://fair2024.ykkap.co.jp/>

YKK AP株式会社  
〒220-8131 横浜市西区みなとみらい2-2-1  
横浜ランドマークタワー31F  
TEL 080-5939-0003 FAX 045-228-3582

## よこすか都市景観協議会

横須賀市には「よこすか都市景観協議会」という協議会があります。この協議会は、横須賀の独自の魅力を持つ都市景観の実現に向けて貢献することを目的に活動しています。

協議会が考える「横須賀にふさわしく魅力ある都市景観」とは、自然の美しさ、歴史的な遺産、伝統的な行事、そして魅力的な景観形成に貢献する活動、素晴らしい建築物やイベントなど、これまでに横須賀という都市で培われてきた「横須賀らしい景観」を指しており、当協議会は、これらの横須賀らしい景観を守り、育みながら同時に新たな景観を創出していくことを目指しています。

当協議会は建築設計関連団体(3団体)、不動産関連団体(2団体)、建設業関連団体、商工会議所、青年会議所、市役所の正会員9団体とオブザーバー会員3団体で構成しており、会長は現在、建築士事務所協会の支部長が務めています。当協議会の歴史は古く、都市景観法が平成16年に施行される前の平成9年に設立されており、早くから横須賀では都市景観に問題意識を持ち、全国的にも注目された協議会でした。

主な活動としては「都市景観フォーラム」の開催、「よこすか景観ニュース」の発行、「すかまち景観デザイン賞」の実施など、景観の向上に資する事業に取り組んでいます。

「都市景観フォーラム」は各団体からの幹事がアイデアを出し合い時世に合わせたテーマを設定しています。今年の2月に行われたフォーラムは第27回目を迎え、テーマを「横須賀リノベーションから考えるまちづくり」とし、全国の建物やまちの再生に関わってきた「いちご

## 株式会社アスデック建築事務所 小泉 厚

株式会社」の石原実氏をお招きし、様々な事例を交え、リノベーションで変わるまちづくりを主とした講演をしていただきました。「すかまち景観デザイン賞」では、テーマを「公園のある風景」として、フォトコンテスト部門とスポット表彰部門のそれぞれの表彰を行いました。

また、年1回発行される「よこすか景観ニュース」では「変化する久里浜のまちなみ」と題し、2023年にオープンした横浜F・マリノスの練習場や2025年3月に開業する横須賀市立総合医療センター等の特集を行いました。

かつて私が幹事をしてきたころの「都市景観フォーラム」では講師に建築家の仙田満氏をお招きし「こどもの成育環境と都市景観」の講演や都市計画家の西郷真理子氏をお招きし「まちの再生と活性化」の講演を行っていただきました。また、さらに過去では「かながわ東京湾岸景観会議」と題しコーディネーターに北沢猛氏、コメンテーターに川崎副市長、横浜副市長、横須賀市長をお招きし、行政の長からの景観に関するディスカッションが行われました。

来年度の「都市景観フォーラム」は、令和7年5月18日(日)に横須賀美術館の設計者でありブリッッカー賞を受賞した「山本理顕氏」をお招きし、講演を行っていただきます。また7月から11月にかけて横須賀美術館では「山本理顕展」が開催される予定です。

年1回開催される「よこすか都市景観フォーラム」事前申込不要、入場無料ですので、是非とも足を運んでいただければと思います。



## 行政との連携

令和3年度から令和5年度まで3年間かけて行っていた愛川町との協働事業『地震に強いまちづくり促進事業』が終わりました。愛川町10区画に分け、約2700戸の旧耐震木造住宅と危険ブロックの塀対象者へ、夏の暑い日や山間部など、みんな汗をかいて耐震相談会のチラシの配布をしました。3年間で耐震相談会への相談者は64名訪れており、「相談先がわからない」や「補助制度があることを知らなかった」等、大半の方が知らなかったという事を知ってもらえたということが収穫であったと思います。また、愛川町全体を隈なく回ったことで、景観や地形等、再認識することが出来ました。半日で1万歩くらい歩いた時もあり、プロット図にチェックしながらの作業は地味で過酷な協働事業でしたが、愛川町からは協働事業の効果があったと評価され、今年度から『地震に強いまちづくり促進事業の実施に関する協定書』を締結し、事業化し、相談体制の強化を整えて、耐震化の実施を支援することとなりました。



危険ブロック調査

こうした中でも、課題点も見られました。

- ① 自身の健康面や跡継ぎの問題等で耐震改修工事まで至らなかった。

相談に来られた方は高齢者の方が大半を占めており、耐震改修工事において準備が困難であること、家族会議の結果、家を跡継ぐ者がいないとの意見がありました。少子高齢化は全国的な社会現象であり、愛川町では特に10歳代後半か

(株)中山工務店一級建築士事務所 中山 裕次  
ら30歳代にかけて流出傾向が強いことが、住宅の耐震化を考えるうえで、顕著に表れた結果となっていることを痛感しました。

② 費用面から消極的になってしまった。生活費や医療費などの物価高にも懸念されることから、耐震改修工事を見送る結果となってしまいました。

③ 今年度から従前の告知方法となることから相談者が来てもらえるのか？

愛川町のHPや広報紙での告知となることから、3年間で配布した方々へ目に留まることを期待しているところです。能登半島大地震において耐震化が進まなかった住宅の大半が上記の事由のあったことから、深刻な問題と感じます。

グレーゾーンに関して、今年度は補助金制度が確立されていないことから協定書には記載されませんでした。お互いに情報共有を図り、協力体制を確立することで意見交換を行いました。比較的所有者の年齢層が若いことや、外装などのリフォームを考慮出来る事から、早期の実施が望ましいと思います。



耐震相談会

行政との連携は、社会貢献を司る建築士事務所として欠かせないものとされており、双方の信頼関係を向上させることにより、地域の発展や環境を守ることに繋がります。

今後も、神事協、県央ブロック並びに行政との連携を深め、地域に根差した活動を推進し、神事協の会員としてメリットとなる事業を展開していく所存です。

## 会員の仕事紹介

当社は文化財修理を数多く手がけており、現在、宮島の巖島神社や沖縄の首里城正殿復元工事でも当社の若手社員が頑張っております。

そうした中、最近では古民家や近代和風住宅の仕事の依頼も多くいただいています。

建築家・白井晟一が晩年に設計した「桂花の舎」を小田原文化財団 江之浦測候所の「甘橘山」に移築するプロジェクトのご縁をいただきました。

--以下、文化庁HPより引用--

2寸勾配の瓦棒葺きの切妻大屋根が妻面を大きく見せる平屋建てのアトリエ付き住宅で、白井作品に魅せられた施主が当初予定していた設計者を断り、面識ない白井に車庫とアトリエ付きという条件のみで設計を依頼した。

建物は、塀や前庭との一体感が豊かな景観を呈する。道路に沿って二方に巡らされた振瓦付きの塀は高さ1.5m程と低く、煉瓦と豆砂利モルタルを層状に仕上げた版築風である。その内側の芝庭には大小の金木犀が植えられ、門から玄関へは付属車庫に沿って柱廊風の石畳が延ぶ。建物の南面は、広い間口が太い柱によって大き

伊勢原支部 有限会社内田工務店 内田 幸夫

く割られ、大きなガラス障子が端正にファサードを形作り、その手前に長い雨落ちの黒砂利が足元を引き締める。

外部の柱や枠材、屋根の破風板をはじめとする主要な部材には太めの栗材を用い、足元には花崗岩を多用している。内部は、アトリエ、居間、玄関、サロンの四室に面する要の位置に、光庭が設けられている。

建設中に白井が他界したため、白井晩年の遺作の一つにあたる。創建時からの改変は照明器具の電球以外一切ないとのことで、竣工時の状態をほぼ完璧に留めている。

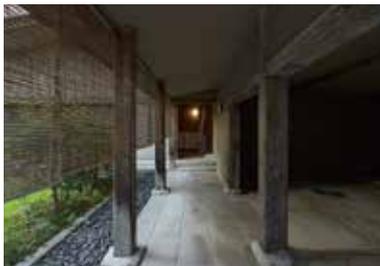
令和6年1月より工事に着手し、部材一点一点を丁寧な解体作業を行い、4月中にすべての部材の解体が完了。現在、解体した部材は当社の工場に格納されており、9月頃より部材の繕いに着手する予定で、令和7年に竣工予定。

完成後は小田原文化財団 江之浦測候所の一施設として限定公開するとともに、江之浦の農地を管理する農業法人「植物と人間」運営による宿泊施設としての活用も計画されています。

13



「桂花の舎」 Photo: Yasushi Ichikawa  
外観



「桂花の舎」 Photo: Yasushi Ichikawa  
エントランス



「桂花の舎」 Photo: Yasushi Ichikawa  
寝室



「桂花の舎」 Photo: Yasushi Ichikawa  
サロン

新入会員のご紹介

横浜支部

ike atelier合同会社 池田 直哉  
〒231-0013横浜市中区住吉町3-28 住吉町新井ビル301  
TEL.070-4136-3219/FAXなし

シロ アーキテクト スタジオ 塚本 奏太  
〒241-0025横浜市区四季美台48-7  
TEL.090-9294-8034/FAXなし

うさぎデザイン 鈴木三枝子  
〒222-0033横浜港区北区新横浜1-29-7-306  
TEL.090-3573-1113/FAXなし

川崎支部

佐藤信行建築設計事務所 佐藤 信行  
〒211-0001川崎市中原区上丸子八幡町562-506  
TEL.080-3242-1715/FAXなし

鎌倉支部

株式会社NECCO一級建築士事務所 藤本 陽介  
〒248-0033鎌倉市腰越2-7-2  
TEL.090-5578-9060/FAXなし

大和綾瀬支部

さきの製図工房 濱崎 美砂  
〒242-0008大和中央林間西6-9-5  
中央林間レジデンスハウスウエスト109号  
TEL.046-207-8808/FAXなし

県西支部

伊藤保典建築設計事務所 一級建築士事務所 伊藤 保典  
〒250-0013小田原市南町2-2-4  
TEL.090-1622-2839/FAXなし

退会者

横浜支部

株式会社田中建築事務所神奈川事務所 阿久津賢次  
株式会社Y S ブラニット一級建築士事務所 若下 俊一

茅ヶ崎寒川支部

株式会社住地総建チーム二級建築士事務所 中村 正俊

藤沢支部

建築総合企画ジーボックス一級建築士事務所 横山 尊重

座間支部

株式会社リフレ神奈川二級建築士事務所 米内 雅浩

海老名支部

清水建築設計 清水 好夫

県西支部

株式会社アール・ティール・ウィザード 加藤 良和

変更

横浜支部

株式会社パウテックグループ (指定代表者変更) 鳥根 秀明

株式会社バル企画 (指定代表者・所属支部変更) 中谷 悦子 (旧) 横須賀支部

一般社団法人かながわ土地建物保全協会 (指定代表者変更) 石塚 裕之

川崎支部

林建築士事務所 (指定代表者変更) 林 健二

和泉建築設計事務所 (所在地・TEL変更) 〒210-0826川崎市川崎区塩浜1-8-2  
TEL.044-277-1353

PERSIMMON HILLS architects (所在地変更) 〒210-0833川崎市川崎区境町6-7-3

横須賀支部

株式会社小川建築事務所 (指定代表者変更) 小川 欣弥

株式会社一級建築士事務所英総合企画設計 (指定代表者変更) 鳥村 秀彦

藤沢支部

株式会社田中建設工業一級建築士事務所 (指定代表者変更) 稲村 和美

賛助会入会者

株式会社Mammy

会勢

支部名	令和6年8月1日現在				
	令和6年4月1日	現在	入会者	退会者	増減
横浜	253	255	6	4	2
川崎	109	111	2	0	2
横須賀	48	46	0	2	-2
湘南三浦	17	17	0	0	0
藤沢	38	36	0	2	-2
鎌倉	42	40	0	2	-2
茅ヶ崎寒川	14	13	0	1	-1
平塚	23	23	0	0	0
秦野	11	11	0	0	0
伊勢原	8	8	0	0	0
大和綾瀬	18	19	1	0	1
厚木	30	30	0	0	0
座間	11	11	1	1	0
海老名	15	14	0	1	-1
愛川	6	6	0	0	0
相模原	63	63	1	1	0
県西	37	36	0	1	-1
合計	743	739	11	15	-4
賛助会員	93	98	5	0	5

※退会報告等の状況により会員数は常に変動しております。  
※入会者、退会者には支部間の異動も含まれます。

編集者のつぶやき

夏の話ですが、横浜市港南区上永谷で数十年に一度しか咲かない「リュウゼツラン」という希少なランが咲いたと話題になりました。話題が全国紙の新聞記事、「ゴゴスマ」などのワイドショーでも連日取り上げられるなど、上永谷の環状2号線の中央分離帯付近はフィーバーでした。下から咲き始めて、上に進むにつれて下が枯れるので、全ての花が同時に咲かないなど、初めて見たリュウゼツランは意外に地味でした。何よりもフィーバーの主のギャラリーが全て中高年層で若者がいないという、長く生きていない若年層に希少さは響かなかったようです。

(横浜支部 アメジスト建築設計 一級建築士事務所 小河 泰隆)



7/17撮影

7/25撮影

7/31撮影

KANAGAWA 令和6年9月号 (通号452号)

発行 令和6年9月1日 (奇数月1日発行)  
 発行人 平山 正義  
 発行所 一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会  
 〒231-0032 横浜市中区不老町3-12 加瀬ビル201 2F  
 TEL. 045-228-0755 / FAX. 045-212-3807  
 印刷所 株式会社 柏苑社

- ・ 担当副会長 小松 正道
- ・ 担当理事 田中 正幸
- ・ 会誌編集特別委員長 小泉 厚
- ・ 会誌編集特別副委員長 仙波 弦
- ・ 会誌編集特別委員 雨森 隆子 小河 泰隆 森本 和樹
- ・ 戸井田 顕 中原 尚代 杉本 勝郎
- ・ 長川 勉
- ・ 事務局 小林 恵美



---

## 今月の表紙 江之浦測候所

写真家・芸術家:杉本博司が監修のもと、2017年に小田原市江之浦に事前予約制の美術館・展示施設として開所。表紙の施設は夏至の日の出の方角を向いており夏至の朝には海から太陽光がこの空間を駆け抜ける。

また、施設内には小松石・根府川石などの素材や各地の遺構が杉本博司の手で収集され保存展示されている。

江之浦の自然や伝統的な建築物、素材を通して建築を今一度見つめ直す事が出来る興味深い施設となっています。

(表紙写真・文 長川 勉)

---

